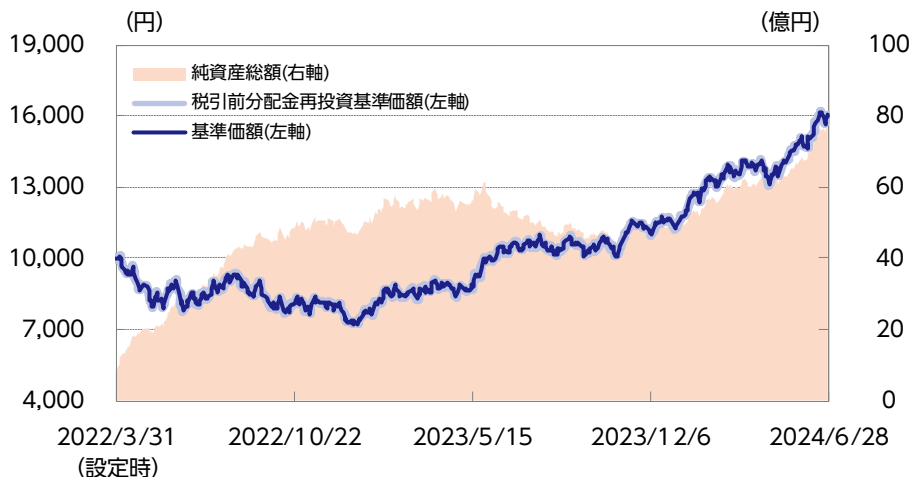




## 運用実績

### 基準価額・純資産の推移



### 基準価額および純資産総額

基準価額	16,028円
前月末比	1,306円
純資産総額	77億円

### 分配の推移 (1万口当り、税引前)

第1期	2022年08月	0円
第2期	2023年08月	0円
第3期	2024年08月	—
第4期	2025年08月	—
第5期	2026年08月	—
第6期	2027年08月	—
第7期	2028年08月	—
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

### 基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	8.9%	15.3%	37.3%	52.1%	—	60.3%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります (個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りと異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

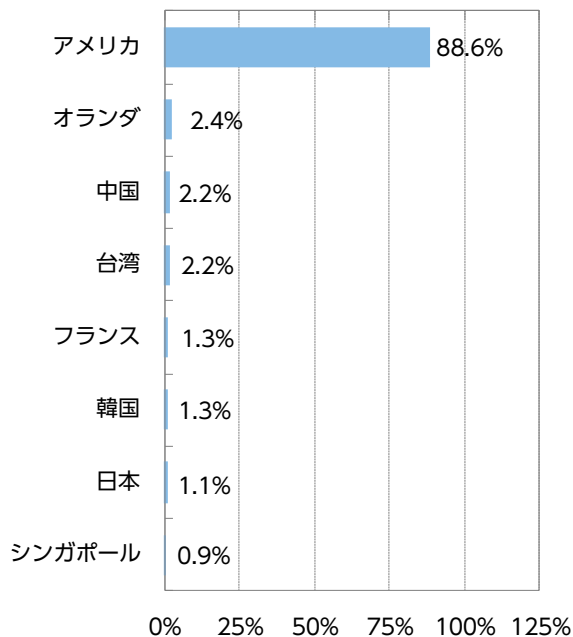
## マザーファンドの状況

### 組入比率

株式等	90.1%
現金、その他	9.9%

※対純資産総額比

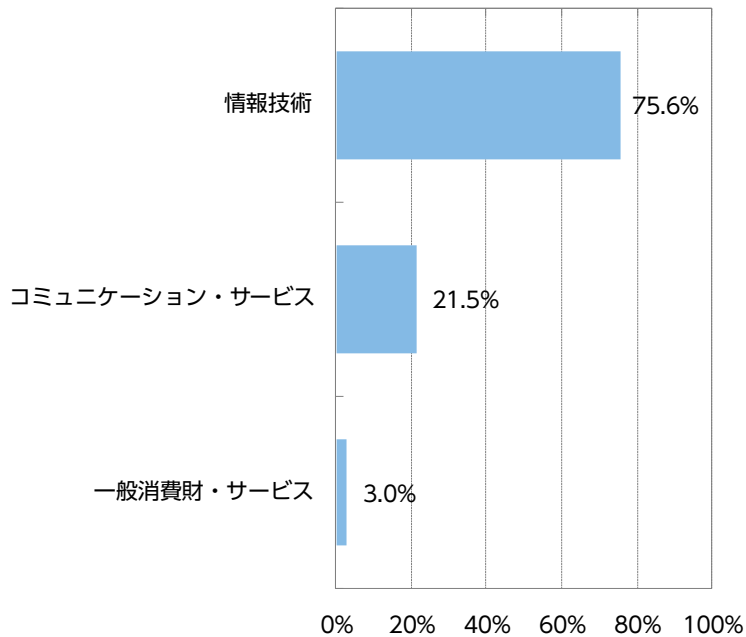
### 国・地域別組入比率



※対組入株式等評価額比

※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。以下同じです。

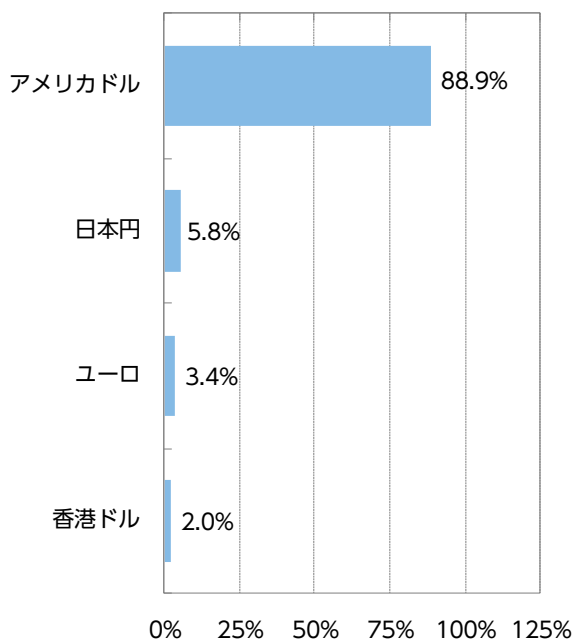
### 業種別組入比率



※対組入株式等評価額比

※業種はGICS分類(セクター)によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。

### 通貨別組入比率



※対純資産総額比

組入上位10銘柄

(銘柄数: 43)

順位	銘柄	国・地域	比率	銘柄解説
		業種		
1	エヌビディア	アメリカ 情報技術	9.8%	画像処理半導体メーカー。高度な3D画像処理技術を活かし、仮想空間で現実の環境を忠実に再現するためのプラットフォーム「オムニバース」を提供。3DCGの制作や製造業のシミュレーションなどさまざまな分野で活用されている。オムニバースは既に700社以上が利用。
2	メタ・プラットフォームズ	アメリカ コミュニケーション・サービス	8.1%	SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)「フェイスブック」などを展開。メタバース実現への貢献をビジョンとして掲げ2021年10月に社名を「メタ・プラットフォームズ」へ変更。VRヘッドセットやVR空間での会議スペースなど既に数多くのメタバースに関する技術やサービスを提供。
3	ブロードコム	アメリカ 情報技術	6.4%	テクノロジーインフラストラクチャー企業、半導体やソフトウェアソリューション分野で業界をリードする製品・サービスを提供。ASIC(特定用途向け集積回路)でアルファベットやマイクロソフトと連携。メタバース関連ハードウェアの構築に同社のカスタムチップが使用される見通し。
4	アプライド・マテリアルズ	アメリカ 情報技術	4.4%	半導体製造装置の売り上げにおいて世界No.1の半導体製造装置・ディスプレイ製造装置メーカー。特に基板上に膜を形成する成膜装置に強みを持ち、メタバースを形成するコンピューティングパワーの増強に不可欠な機器を製造。
5	アリスタ・ネットワークス	アメリカ 情報技術	4.2%	ソフトウェア駆動型のコグニティブ(企業のニーズに対応する)・クラウド・ネットワーキング・ソリューションを提供。同社のクラウド・ネットワーキング・ソリューションは完全にプログラム可能でモジュール性が高いLinuxベースのオペレーティング・システムで、メタバースに必要な安全で高速なネットワーキングを実現。
6	クアルコム	アメリカ 情報技術	4.0%	半導体・通信機器メーカー。スマートフォン向け半導体の開発が有名な同社は、AR・VR機器用のチップも手がけ、VR機器用では圧倒的なシェアを持つ。また、米マイクロソフトとメガネ型AR端末向け半導体チップの共同開発を発表。
7	マイクロソフト	アメリカ 情報技術	3.8%	メタバースに必要なクラウドコンピューティング、ハードウェアデバイス、および仮想コンテンツを提供。複合現実での共同作業を体験できる「メッシュ」、人気ゲーム「マインクラフト」などがある。
8	イマージョン	アメリカ 情報技術	3.7%	ハプティクス(触覚)技術開発を行う。モバイル機器、自動車、ゲームなどあらゆる分野で利用者に対しリアルな感触のフィードバックを実現する。3,500件以上の特許(出願中の特許を含む)を有し、アップル、グーグル、任天堂、サムスン、ソニーなど多くの企業が同社の技術を採用。
9	テラデザイン	アメリカ 情報技術	3.2%	エレクトロニクス、テレコム産業およびインターネット産業向けの自動検査装置(ATE)の世界大手メーカー。半導体検査装置の世界大手の一角でもあり、イメージセンサーなどに使われるSoC(システム・オン・チップ)テストに強みがある。
10	ケイデンス・デザイン・システムズ	アメリカ 情報技術	3.2%	電子設計分野のソフトウェア(EDA)、ハードウェア、IP(設計済み半導体回路)を提供。EDAはメタバースに対応した最先端の半導体設計を可能にするために不可欠なものであり、同社のClarity 3D Solverはシミュレーション分野にも対応。

※対組入株式等評価額比

## 当月の市況動向

当月の世界株式市場は、米国のインフレの落ち着きが好感されたこと、人工知能（AI）の成長を支える半導体関連銘柄への物色などから、上昇しました。

上旬は、欧州中央銀行（ECB）の利下げ開始決定や、米国での低調な景況感指数発表を受けた米長期金利の低下、AIの成長を支える半導体関連企業が早くも次世代のAIチッププラットフォームを発表したことなどで半導体関連銘柄がけん引し、上昇する展開となりました。

中旬以降は、フランスのマクロン大統領が国民議会（下院）の解散と総選挙を突如決定したことで政情不安が高まり、欧州を中心に下落する局面がありました。もっとも、米国のインフレの落ち着きや、米連邦公開市場委員会（FOMC）で年内利下げ回数は従来予想から減ったものの利下げ見通しは維持されたこと、米アップルによる待望のAIサービスの発表などが好感され、欧州以外は堅調に推移し、上昇基調を維持したまま月末を迎えました。

為替は、米財務省が為替操作をしていないか注視する「監視リスト」に日本を再び加えたことで日本の当局による円買い介入が困難になったとの思惑や、米国の年内利下げ見通しが1回となったこと、日銀の国債買い入れ減額の具体的な計画発表が市場の予想外に先送りされたことなどから、円は米ドルなど主要通貨に対して円安となりました。

## ファンドの状況

当月末の基準価額は16,028円となり、前月末比+1,306円となりました。

当月は、ブロードコムなど保有銘柄の業績が良好だったことや、米国のインフレの落ち着きが好感されたこと、AIの成長を支える半導体関連銘柄への物色などが、当ファンドの株式のパフォーマンスへプラスに働きました。個別銘柄では、アメリカの画像処理半導体（GPU）メーカーであるエヌビディアが最もプラスに寄与しました。3月に新モデルの「Blackwell」を発表したばかりにもかかわらず早くも次世代のAIチッププラットフォーム「Rubin」を発表したことなどで、株価が上昇しました。一方で、アメリカのデータインフラストラクチャー向け半導体ソリューションを提供する企業が最もマイナスに寄与しました。2-4月期の業績において、AI向けなどのデータセンター事業は良好だったものの、法人向けや消費者向け事業が低調だったことなどが嫌気され、株価が下落しました。

## 今後の見通しと運用方針

米アップルは年次開発者会議「WWDC」を当月に開催し、パーソナルAIである「Apple Intelligence」を発表しました。「Apple Intelligence」は2024年秋ごろリリース予定で、「iPhone」・「iPad」・「Mac」で利用できる見込みですが、当月末に日本でもついに発売開始となった「Apple Vision Pro」への搭載は見送っており、今後搭載する計画がブルームバーグで報じられています。「Apple Intelligence」が提供する「通知の優先順位付け」、「ライティングツール」、「新しいSiri」などの機能は、Google型端末である「Apple Vision Pro」にこそふさわしい機能であるとみられていますが、MR（複合現実）環境で適切に表示されるには時間が必要と指摘されています。「Apple Vision Pro」で「Apple Intelligence」が実行できるとすれば、さらに先進的な使い方が期待できると見込まれており、今後のアップデートを注視していきたいと考えています。引き続き、メタバースの世界を支える仮想空間や、アプリケーション、サービス、そしてメタバースの世界で行われる膨大なデータ通信に至るまで、いずれもメタバースの世界を支えるインフラストラクチャー（基盤）の開発が当面は主要な業績ドライバーになってくると見込まれ、現在の不透明な環境下でも業績を着実にあげることができる企業に当ファンドは特に注目しています。

当ファンドは、長期的な視点で、今後大きな成長が期待される「メタバース」に関連する技術、コンテンツ展開力、市場アクセス等に強みを持つ企業へ投資を行っています。投資にあたっては、「メタバース」関連の技術やコンテンツ等において企業として競争優位性を持っているのかを分析したうえで、今後、中長期的な業績成長シナリオを達成できると見込まれる企業への投資を行っています。

世界的に政治情勢は不透明な様相を呈しており、11月の米大統領選が近づく中でさらに神経質な展開が予想され、金融市場はかじ取りが難しい外部環境が続いています。AIを主軸とした産業革命への期待の高まりは世界の株式市場を下支えすると見込まれますが、引き続き金融市場におけるセンチメント（市場心理）の振幅が大きくなりやすいことが予想され、過度な楽観には特に注意が必要と判断しており、株式のバリュエーション（企業の利益・資産など、本来の企業価値と比較して、相対的な株価の割高・割安を判断する指標）に留意しつつ、個々の企業業績を中心としたファンダメンタルズ（基礎的条件）に着目した物色やセクターローテーション（景気の局面ごとに有望な業種別銘柄群に投資対象を切り替えていく戦略）の激しい動きが続く可能性が想定されます。

経営への確かな執行能力を持ち、業績などの本質的価値と中長期的な目線で魅力のある企業の成長力、バリュエーション、株主への還元余力などを冷静に見極めて投資することが重要と考えています。

「メタバース」はこれから成長する技術でもあり、多くの技術やコンテンツ等は、比較的新しい中小の企業が持っていることも事実です。このため、当ファンドでは、時価総額などで規模の小さい企業群への投資がやや多くなる傾向にあります。この傾向については、「今後、これらの中小規模の企業が大きく業績成長することを期待して投資を行っている」とご理解いただけますと幸いです。銘柄選別にあたっては、「メタバース」をキーワードとして業績成長シナリオを想定しており、経営陣が確かな執行能力を持つと思われる企業の中から、長期的な成長力を重視しております。同時に、株価バリュエーションを考慮し、相対的にバリュエーションが高過ぎる銘柄を排除するなど、慎重な銘柄選択を実施しております。今後も「メタバース」をキーワードに、長期的な成長を達成し、同時に企業価値を向上することができる銘柄への投資を進めていきたいと考えています。

## ファンドの特色

①日本を含む世界各国の株式のなかから、「メタバース」に関連する事業を展開する企業の株式に投資します。

メタバースとはメタ(meta：超越)とユニバース(universe：世界)を組合せた造語で、通信ネットワーク上に構築された仮想空間やそのサービスのことをさします。参加者はアバターと呼ばれる自分の分身を操作して、仮想空間内でさまざまな活動を行うことができます。

②DWSインターナショナルGmbHからの助言を活用し、株価上昇が期待される銘柄を厳選します。

③年1回決算を行います。信託財産の十分な成長に資することに配慮し、分配を抑制する方針です。

## 投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

### 基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

### 主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

- ファンドは、特定のテーマに絞った株式への投資を行います。したがって、株式市場全体の値動きとファンドの基準価額の値動きが大きく異なる場合、また、より幅広いテーマで株式に分散投資するファンドに比べ基準価額の変動が大きくなる場合があります。

## 分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。

これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受け付けを中止する、また既に受け付けた換金の申込みの受け付けを取消しする可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

## 手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

## お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。 ※申込締切時間は2024年11月5日から「午後3時30分」までとする予定です。ただし、申込締切時間は販売会社によって異なる場合があります。
	申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金の申込みの受け付けを行いません。
決算・分配	決算日	8月10日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	2044年8月10日まで（設定日：2022年3月31日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となり、当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象となります。ただし、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

## ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に <b>3.3%（税抜3.0%）を上限</b> として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎日	運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に <b>年率1.8975%（税抜1.725%）</b> をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・手数料	組入有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

- ⓘ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
- ⓘ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

## 税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- ・少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」は少額上場株式等に関する非課税制度であり、NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たしたファンドを購入するなど、一定の条件に該当する方となります。

詳しくは、販売会社にお問合せください。

- ・外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- ・法人の場合は上記とは異なります。
- ・税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く）
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	ホームページ <a href="https://www.nam.co.jp/">https://www.nam.co.jp/</a>
三菱UFJ信託銀行株式会社	



## ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

## 取扱販売会社一覧

\*販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合があります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
あかつき証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
阿波証券株式会社	○		四国財務局長(金商)第1号	○			
OKB証券株式会社	○		東海財務局長(金商)第191号	○			
光世証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第14号	○			
静岡東海証券株式会社	○		東海財務局長(金商)第8号	○			
七十七証券株式会社	○		東北財務局長(金商)第37号	○			
株式会社しん証券さかもと	○		北陸財務局長(金商)第5号	○			
大熊本証券株式会社	○		九州財務局長(金商)第1号	○			
南都まほろば証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第25号	○			
西日本シティT T証券株式会社	○		福岡財務支局長(金商)第75号	○			
ニュース証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第138号	○	○		
ひろぎん証券株式会社	○		中国財務局長(金商)第20号	○			
三津井証券株式会社	○		北陸財務局長(金商)第14号	○			
明和證券株式会社	○		関東財務局長(金商)第185号	○			
株式会社愛知銀行		○	東海財務局長(登金)第12号	○			
株式会社香川銀行		○	四国財務局長(登金)第7号	○			
株式会社筑邦銀行		○	福岡財務支局長(登金)第5号	○			
株式会社中京銀行		○	東海財務局長(登金)第17号	○			
株式会社富山第一銀行		○	北陸財務局長(登金)第7号	○			
株式会社福岡中央銀行		○	福岡財務支局長(登金)第14号	○			